



こんにちは  
市議員

# 井坂博文

議会報告  
2017年11月26日号  
です

連絡先／日本共産党北地区委員会：京都市北区紫野雲林院町78／電話432-3261／FAX441-4968

## 焼却灰溶融施設訴訟に和解提案



11月20日、11月市会に議案提案される、焼却灰溶融施設プラント設備工事訴訟の和解案に関する党市会議員団としての談話を発表。

党議員団は、灰溶融処理は技術的に未完成の施設であり、ランニングコストが自治体財政を圧迫し運転中止に至る自治体が増えていること、本市施設が総事業費175億円、年間運転経費20億円を要するなど、巨額のムダ遣いであることを指摘し、計画当初から事業の中止を強く求めてきました。

ところが、京都市は聞き入れることなく施設設備工事をすすめました。排水から基準値を大きく超えるダイオキシン類が検出されるなど、試運転直後からトラブルが発生し試運転が繰り返し延期され、その後も重大トラブルが発生し、当初の引渡し期限を過ぎても施設は完成しませんでした。

京都市と住友重工の双方がずるずると工期延期を繰り返し、どこまでも灰溶融施設整備にしがみつく姿勢に対し、党議員団は事業をただちに中止し、契約を解除し、市民負担を生じさせない解決を図るよう市長に求めました。

灰溶融施設の欠陥を認めようとせず整備に固執し、契約解除の判断を遅らせた市長の責任は極めて重大です。市長は契約解除に至った経過とともに、十分な検証もないまま住友重工へ工事発注した業者選定について市民にきちんと説明し、謝罪すべきです。

一方、京都市は東部山間埋立処分地の延命策の中に、溶融施設整備方針を掲げていますが、今回の教訓に学んで、溶融施設整備方針を見直して撤回すべきです。

11月市会において徹底した議論をやりまします。

## 関西広域連合議会で

### 民泊問題を質問

16日、関西広域連合議会臨時会が開催され、一般質問をおこなった。申し合わせて京都市会に

割り当てられた時間は一回8分。言いたいこと、聞きたいことは山ほどあるのだが毎回絞り込みに苦勞している。

今回は京都市でも大問題になっている「民泊」問題に特化して質問した。なお、答弁は連合内の観光、宿泊担当の山田啓二（京都府知事）委員が欠席されたので、副担当の門川大作（京都市長）委員が答弁に立った。

①住宅宿泊事業法について。現在の許可制を届け出制に変更し、野放しになつて違法「民泊」を合法化するものであり、家主不在で管理業者が管理する宿泊施設は現行法通り住居専用地域では設置不可とすること。家主常駐を基本にし不在の場合は管理事業者による24時間常駐を義務付けること。

↓（門川）違法民泊によるトラブルが急増している。広域連合として国に、「地域の実情に応じた、柔軟な対応ができるよう」求めている。

②「民泊」周辺地域の生活環境などに対する措置について。衛生確保の措置や消防関連法の遵守、防火に万全を期すなどの措置、周辺への悪影響防止措置を業者に徹底させること。

↓（門川）法令の順守は当然。安心と安全の確保を事業者は果たすべき。

③違法「民泊」に対する国、自治体の対応について。自治体が実効的な罰則規定を確保し、条例制定において「上乗せ」や「横だし」の規定を設けようとする自治体の条例制定権を悔いは最大限尊重すべき。

↓（門川）法令の順守が当然。一方で法を超える条例は制定できない。新法の政省令を見ながら、各自治体で対応するようにしていきたい。



焦点は、違法「民泊」に営業の抜け穴を作らせないことと、民泊合法化の新法に対して自治体独自の条例で規制を加えることができるかどうか。

質疑を終えて休憩になると、他県の議員の方が「リアルなやり取りがよくわかった。うちでも大きな問題となっている。参考に

したいので質問原稿をもらえないか」と声がかり、原稿を渡しておいた。

隣の席の大阪市の議員は「うちは来年の2月市会には市長の条例提案が間に合いそうにない。ぜひ資料がほしい」と話になり、会派は違うが資料など情報交換をすることに。

## 府民大集会で懐かしい友と再会

14日に開かれた府民大集会に新潟からゲストで訴えに来た川俣幸雄さん。

40年前、私が京都府学連、彼が新潟県学連の委員長という学生運動の同志。

会場で再会を喜び、がっちり握手。



## おやじの会の「大逃走」成功！

19日、今年最大の冷え込みとの天気予報でどうなるかな、と心配しながら紫野・楽只・乾隆三校合同おやじの会のビッグイベント。テレビでもお馴染みの「逃走中」。ハンターが参加する芸能人を追いかける、いわば大人の鬼ごっこだ。

会場は船岡山公園一帯。参加した小学生は三校で180人、ハンターやスタッフには三校の保護者・先生・仏大の学生ボランティアなど約80人。

子どもたちは元気いっぱい逃げ回り、ハンターも一生懸命に追いかける。追いつ追われつのゲームを90分間終えた後は、紫野小学校に戻り、おやじ特製のホットドッグを提供。何個もおかわりする子もいて大好評。



参加した子どもたち、保護者や先生や仏大ボランティアのみなさん、お疲れ様でした。そしてありがとうございました。